

【緑地の樹】

イヌシデ(犬四手)

ある雪の降った翌日森に行って、白い雪の中に真っ黒な樹皮の林を見て驚きました。濡れて黒くなっていたのです。それが初めてのイヌシデとの出会いでした。



イヌシデの垂れ下がった果穂(4~8cm)が、玉串やしめ縄に付けて垂らした、切って折ったような白い紙(四手)と似ているので名付けられたそうです。

本州から九州の山地、朝鮮や中国にもあり、高さは普通10~15m。樹皮は灰白色で滑らかですが、古木になると縦に浅い細い筋状の窪みが出来ますが、私にはそれが縦のよろけ縞模様に見えます。葉(4~9cm)

プロフィール：カバノキ科 クマシデ属

緑地の中央広場に入る入口脇、「能ヶ谷西ふるさとの森」の看板横に立っています。

は、桜の葉を少し細くして先を尖らし、葉脈がかなりはっきりしています。葉と枝に細い毛が付いているので、特に若葉は薄緑色でとても柔らかくてきれいです。

4月頃の芽吹き、5月頃の若葉と黄褐色の房紐のような花序、そしていつでも林の中の灰白色で縦のよろけ縞模様の幹の樹を見つけたら、それがイヌシデです。

能ヶ谷西緑地にもかなりあるし住宅の庭等にもあるので、探してみませんか。



(星)